

アンコール小児病院(AHC) “6月の出来事”

今月は、新病棟改築完成とAHCスタッフ教育を中心にお知らせいたします。



広々と、動きやすくなった新入院病棟

ウルトラソニックス・メディカルコーポレーションより、新しいデジタル超音波の器械が寄贈されました。デジタル式なので、より早く確実な診断が可能になります。この器械の到着から24時間も経たないうちに早速救急外来で使用し、肝臓の膿瘍が診断されていました。

この器械の輸送にあたっては、マニックス・フライトサービス、キャセイパシフィックの皆様にご協力をいただき、そのほか多くの方々のご協力によって寄贈が実現されました。その皆様方のお力により、たくさんの子供たちの命を救えることは間違いありません。

4月に始まった入院病棟の改築工事が終了しました。スペースを隔てていた壁が取り去られ、大きな空間ができ上がったことで、患者さんのベッドの間隔が広くなり、スタッフも動きやすくなりました。また感染予防にも大きな効果が上がることでしょう。ナースステーション(写真右側のカウンター)も機能的になり、無駄なスペースがなくなりました。この改築のための寄付をしてくださったジョナサン・フレイシグさん、ウェンディ・ジフォードさん、シェリル・クラウスさん、カーチス・ジェンセンさん、そしてアンザルツご夫妻にスタッフ一同感謝の気持ちをお送りいたします。AHC開院以来11年の時が経過し、当初悩みに悩んで設計された建物も、よりよい医療の提供を目指すことにより、様々なニーズの変化が生じ、その形態を変えていかなければならないことがたくさん出てきました。

変えなければならぬのは建物ばかりではなく、システムや提供するサービスの内容も同様です。スタッフには、こうした変化に柔軟に対応していけるような発想を持つことが要求されてきます。

11年前には「病院の壁は白でなければだめ。医師の指示には意見を言っはいけない。上司の言葉は絶対！」という固まった思考を持っていたカンボジア人スタッフですが、今では柔軟な頭をフル活用できるようになりました。



新しい超音波器械で診断中のチェン医師



ICU入院時のチャナンちゃん



退院直前のチャナンちゃん

1歳半になるチャナン君(写真左2枚)は、ある日呼吸困難と高熱を発症し、AHCのソニコム遠隔クリニックへ運び込まれました。スタッフは直ぐに重篤な肺炎を起こしているチャナン君を医療機器の揃ったAHCへ搬送し、緊急処置を行いました。人工呼吸器での呼吸コントロールと抗生物質の投与。その結果、チャナン君は劇的に回復を見せてくれました。

もし遠隔クリニックがなければ、チャナン君はAHCへ辿り着いたかどうか？ 着いたとしても手遅れであったということは容易に想像ができます。また、的確な診断のできない人材(やぶ医者?)しかいない、治療に必要な器材の揃っていない個人の病院やクリニックへ行ったのならば、チャナン君の笑顔を二度と見ることはできなかったでしょう。チャナン君のような症例は稀ではありません。しかし、チャナン君が命を落としてしまう結果にならなかったのは、とても幸運としか言いようがありません。

地方に住む人々にとって、遠隔クリニックの役割はとても大きいと実感する症例でした。



会議受付にてピセス医師

AHCのソパル看護師(写真右)が、アメリカ合衆国のセントラルカリフォルニア小児科病院にて1か月に及ぶ院内感染予防とコントロールの研修を受け、終了認定証を授与されました。滞在中にはサンフランシスコのメディカルセンターや、ポートランドの小児病院も訪問することができました。

また、ピセス医師(写真左)は、シンガポールで開催された救急医療の国際会議に参加しました。会議2日目には自ら“救急外来における小児経鼻的持続陽圧呼吸療法使用について”というプレゼンテーションを堂々と発表することができました。

2人とも戻ってきた時には「カンボジア料理が食べた〜い」と言っていました。ふふふ。その気持ち、とっても良く分かりますね。



認定証を授与されるソパル看護部長



フワフワのぬいぐるみを抱きしめ帰路につく患者さん

2010年冬季オリンピックが開催されたバンクーバーからはるばるカンボジアのAHCの子どもたちへ、可愛いプレゼントが届きました。

皆さんもよく目にする光景だと思いますが、フィギュアスケートの競技でスケーターが演技を終了した時に、その素晴らしい演技をたたえる意味で花束やぬいぐるみがリンクの中に投げ込まれますよね。私は、いつも不思議に思っていました。プレゼントは一体どうなるのかと。その回答が今回のこのプレゼントなのです！ スケーターの皆さんとボランティアの方々が、集まったぬいぐるみをAHCへ寄付してくださいました。

AHCへ来る多くの子ども達は貧困という状況の中で生活をしています。ぬいぐるみのようなおもちゃを購入する余裕はありません。AHCへ来た時におもちゃをもらうという経験は、きっと、一生彼らの思い出の中に残るのではないのでしょうか。

今回のこの寄付は、以前AHCでボランティアをしていたヘザー・ギャラファーさんのご協力により実現し、多くの子どもたちへ素敵な思い出をプレゼントすることができました。ありがとうございます。



私が畑仕事の合間に食べるおやつ。カンボジア語でポウットトリア(ナツメの実)です。小さなリンゴのようでさわやかな酸っぱさのあるさっぱりとした果物です。カンボジアでは、トウガラシと塩を混ぜたものをつけながら食べます。畑仕事で汗をかき失った塩分補給にもいいですね。



“はるばる”というお話が出ましたので、こちらも“はるばる”やってきた”話題です。

カンボジアは雨期に入り色々な野菜やお米の栽培の時期となりました。我が猫の額ほどの畑にも野菜を作り始めました。

日本から持ってきたトウモロコシの種を植え、ここまで成長してくれています。気候の違いにより日本の種を栽培するのはとても大変で、これまでも何度も色々な野菜でトライはしているものの、成功率はとても低いです。今回は、このトウモロコシに命をかけ(ちょっと大きですが...)美味しい実がなることをかなり期待しているのです。

栽培の成功の暁には、私がおいしそうに茹でトウモロコシを食べている写真をみなさんへお送りいたします。お楽しみに！！

6月の出来事でした。今月もこの紙面に載せきれなかった話題がたくさんあり、何を載せようと毎回頭を悩ませます。来月もまた今から「あ、これもいいな！」という話題がたくさんです。乞うご期待！

アンコール小児病院 赤尾和美